



episode.04

「幻の川畑みかん」の復興

話し手 幻の川畑みかん復興会

かみまい けいいちろう

上舞 啓一郎さん (昭和34年1月16日)

聞き手 鹿児島県立加世田常潤高等学校

内田 凜 内之倉 花音

大坪 海斗 菊永 聖結

下八重 里夏 前原 摩穂

「川畑みかんの特徴」

川畑みかんは南さつま市の川畑地区が原産のみかんです。皮は若干硬いですが、12月から1月に収穫して、5月まで保存が効きます。昔は農作業の際、お茶請けで食べられたようです。収穫してすぐは香りが全くしませんが、2週間くらいおいておくと、淡い香りがしてきます。包丁で割って食べれば、香りも良いし、甘酸っぱいみずみずしいみかんです。おいしい食べ方は生食です。

柑橘類は、水はけと日当たりが良い方が育ちます。川畑も傾斜地が多く日当たりが良い場所が多いので、川畑みかんがよく育ったんでしょうね。

「川畑みかんを伝えたい」

かつて、川畑みかんは各家庭の庭先に植えられていました。しかし、果樹園で栽培するような農業散布をはじめとする管理作業を行わず、カミキリムシの幼虫にやられて本数が減りました。

平成7年に、私の長男が川畑小学校の5年生で、私はPTA会長をしており、川畑という地名をみんなに知ってもらうために何かできないかと考えてたんです。そこで、川畑という名前が入っているということで、川畑みかんを卒業記念に植えました。当時は、川畑の方にもみかん園をやっている人がたくさんおり、その園をお借りして高接ぎや接ぎ木を行って自分たちで苗を増やして、卒業記念樹にしました。



「復興への思い」

平成7年に植えた、川畑小学校の樹も3年前に枯れました。現在の川畑地区内に残存する川畑みかんは18本だけです。昨年、みなさんの先輩が川畑みかんの認知度に関する調査をしたところ、高齢の方は知っているが、若い方の認知度が低い結果になっていました。特に30代以下になるとほとんど知らない状況でした。私も次の世代へ川畑みかんを伝えたいと思い、地域の方を中心に15名程で「幻の川畑みかん復興会」を結成し、「復興園」として畑を借りて8本ほど栽培に取り組んでいます。

ここ数年、新聞に川畑みかんが掲載されたこともあり、南さつま市役所の方に問い合わせがたくさん来ています。遠方は千葉からの問い合わせもありました。高齢の方や出身地が川畑や近くの方は、川畑みかんって懐かしいな、あれば欲しいなとおっしゃる人もいます。どんどん川畑みかんを復興させて果実を渡せればと思っています。

「復興の先へ」

川畑みかんを復興して栽培だけをすれば、また衰退していくと思うんです。だから商品化をして今までにはなかった形にしていかなないと途絶えてしまいます。今、柑橘類がだんだん衰退してるんですよ。爪が汚れるとかでみかんを剥く人が減ってるんです。「みかんを剥いた形で販売できないですか」って声もありますので、地元の高校生と協力して加工品として商品化できないかと思っています。酸味や香りがありますので、リキュールやドレッシング、ジャムなど色んな可能性があると思います。そして将来的には、ふるさと納税の返礼品などで幻の川畑みかんを発信していきたいと思っています。

